

加藤孝造さん名器一堂

多治見市で追悼展 瀬戸黒など展示

4月に88歳で逝去した人間国宝の陶芸家加藤孝造さんの作品を特集した「追悼展」が、多治見市虎溪山町の「とうしん美濃陶芸美術館」で始まった。技術保持者認定(人間国宝)を受けた「瀬戸黒」の茶わんをはじめ、



4月に死去した人間国宝加藤孝造さんの追悼展
＝多治見市虎溪山町、とうしん美濃陶芸美術館

志野、黄瀬戸など15点を並べている。7月2日まで。

同館では東濃信用金庫創業100周年記念事業として、昨年通年で「美濃陶芸6人の人間国宝展」を催し、11、12月に孝造展を開いたばかり。現在は「装飾のうつわ」展を開催中だが、死去を受けて急ぎ、併催の展示内容を変更。1983年から昨年制作の近作まで所蔵品を披露した。

漆黒の深さが目を引く茶わん、華やかで優美な緋色が目を引く志野の水指や花入れ、若い頃からの制作の幅広さを示す黄瀬戸や唐津の茶わんなどがあり、巨匠のものづくりの一端に触れることができる。

主席学芸員の與語小津恵

さん(52)は「人間国宝展では展示の構成から相談に乗っていただき、作品に寄せる思いや技法を紹介し、来場者に向けて直接語っていたこともできた。

お元気だったので(死去は)信じられない気持ち。今回は昨年展示できなかった所蔵品が多いのでぜひ鑑賞してほしい」と話している。

同金庫では本店(多治見市本町)でも孝造さんの作品5点を展示しており、手がけた陶壁「みのり」も希望すれば見学できる。
(箕浦由美子)